



扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
4 月 号
2020. 4. 24 発行

何事も考え方次第・・・『ピンチはチャンス』

校長 海 頭 巖

『花が咲いた。心が和む。そして笑顔の花が咲いた。』

時間短縮で規模は縮小でしたが入学式を行うことができ、117名の新入生を迎え、全校生徒352名の令和2年度の学校生活が順調にスタートを切りました。しかしコロナ感染の影響で4月16日（木）から再度の臨時休校。感染拡大防止の観点から、また生徒の命と健康を守るためには致し方ありません。ほとんどの生徒は、新しい学校生活への大きな期待と強い意気込みでのスタートだったはずです。何か出鼻をくじかれた感が一杯で、心がズタズタになりそうだったのではないのでしょうか。

ここで、休校前日の全校放送で話したことをもう一度おさえておきます。

（略）学校再開に向けての、今が辛抱の時です。（略）前回計画的に取り組めなかった人は、今回は挽回のチャンスです。この与えられた、自己を見つめ直し挽回できるチャンスを決して見逃さないようにしてください。『この二週間の生活の仕方が人生を創る』くらいの気持ちで生活してみましょう。そのためには、

一、決めた時間（いつもの時間）に起きる。

一、すべきことをする。

この一日一日が積み重なって、自分の一生となる。そう思って生活してください。別に難しいことを言っているわけではありません。でも、この二つができれば、自分自身の心をコントロールでき、自分で自分を指導できるようになるのです。

そんな成長した姿をまた見せてください。（略）

どうですか、実践できていますか。よろしくお願いします。あの時私はあえて『我慢』ではなく『辛抱』という言葉を使いました。それは『我慢』は嫌なことをむりやり耐えているといった暗いイメージがあります。一方『辛抱』という言葉は、どちらかという『我慢』よりは前向きでポジティブに思えたからです。何事も考え方次第です。今回のことはとても辛いことですが、『ピンチはチャンス』と考えてみるのもいいと思います。

『苦あれば楽あり』と言われますが、今回のことは『苦は楽の種』と考えてみてはどうでしょうか。『苦あれば楽あり』とは考え方が違います。物事には様々な捉え方があるけど、ピンチの中にも自分を伸ばす『可能性の種』が存在していると思うのです。『ピンチが自分を成長させるためのきっかけである』と考えてみるのが大切だと思うのです。ピンチの中にも『可能性の種』をしっかり見つけ出すことができるかが鍵になります。前向きに物事を考え、ピンチをチャンスと考えたとき、思考も行動も相乗効果を発揮して、自分を成長させてくれるはずです。『可能性の種』を見つげ出し、可能にしたときこそ、以前にも増して、パワーアップしてくるものだと思います。ピンチという自己変革（＝自分を成長させる）のチャンスを生かすも殺すも、考え方次第なのです。

あめふり（あめあめふれふれ）の歌を歌ってみる。「あめあめふれふれ母さんが…ピッチピッチ、チャプチャプ、ランランラン」。歌詞を少し変えて歌ってみる。「ピンチピンチ、チャンスチャンス、ランランラン」と。『雨降って地固まる』といいます。明るく前向きに捉えていきたいものです。